

あけましておめでと〜うございます。
本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

新年にあたり

医師 大原紗矢香

あけましておめでと〜うございます。

皆さまが穏やかな新年を迎えておられるよう願っております。

年末年始に当たり、クリニックでも毎年数日の休診をいただいています。定期的にかかっていた方には、前回受診からの間に、体調に変化がなかったかをお聞きしていますが、「ここが休みのときに体調が悪くなって」と話してくださる方も見受けられます。

近江八幡・蒲生郡市の医師会では、医療機関の休診の増える期間に休日診療所を開いています。普段の土日、祝日だけではなく、年末年始やお盆休みなども診察しており、当院の医師も当番制で診察に当たっています。



安心して日々の生活を送るう

えで、医療機関の整備は重要な問題です。先日、震災で津波の被害を受けた宮城県の南三陸町で公立病院が再建され、診療が再開されたというニュースを知りました。宮城県内で津波の被害を受けて全壊した六つの公立病院の中で、再開は初めてだということです。その病院に勤務されている医師によると、新病院ができたというニュースをテレビで見た、と受診された患者さんがいらしたそうです。その方は震災までは町内の医療機関に通っていたそうですが、震災後は子供さんのいる町で転々とされ、半年ほどは隣の医療機関にかかっていた、という四年

間だそうです。

災害で医療機関がなくなるといのは極端な例としても、公立の病院の統廃合は身近に耳にすることですし、開業医さんであれば後継ぎがなく廃業されることもあります。同じ医師にいつでも、いつまでも診てもらいたいという希望をもっておられる患者さんもいらっしゃいますが、難しいのが現状です。

当院では外来は当番制を取っています。曜日や時間帯によって診察に出る医師が異なるため、カルテの内容を統一するなど、普段と違う医師が担当した場合でも、これまでの治療内容を共有できるように努めています。



いくつかの医療機関におかかりの方も多いと思いますが、医療機関が違えばカルテの内容を共有することは難しくなります。診察内容を共有する試みは、実際にいくつか運用され始めているものもあります。物議を醸しているマイナンバー制度ですが、将来的に医療機関をこえた情報の共有など、利用者にとって有益な運用がされればと考えています。

クリニックで安心して治療を受けていただくためには、より高度な治療や検査が必要となった場合には、紹介できる後方病院の存在が欠かせません。「以前と違って、大きい病院には紹介状がなければかかれなくなつた」と嘆かれる声も耳にしますが、かかりつけ医との役割分担をすることで、必要な時に連携を取ることが可能となり、結果として患者さんのお役にたてると考えています。紹介状のやり取りをすることでお互いの診療内容を共有しています。

安心して日々を過ごすことができる平成二十八年になるように、今年もみなさんの生活に寄り添う医療を提供していきます。



糖尿病治療の目的やゴールは

年代によって異なります

看護師 宮井 由里子

糖尿病は血糖値が慢性的に高くなる病気ですが、小児から高齢者まで幅広い年代の人がかかる可能性があります。患者さんの年代によって治療の目的やゴールが異なるため、同じ病気であっても治療の進め方は一様ではありません。

小児や若者世代は、肥満にともなう糖尿病が増えています。動物性脂肪やスナック菓子を食べることが多く、内臓脂肪がたまってメタボリックシンドロームになっていることも少なくありません。二型糖尿病と診断される子どもの八〇%以上は、肥満を伴っています。残りの二〇%弱は、家族に糖尿病の人がいることが多く、インスリン分泌が少ない体質をもっていることがあります。

子どもの糖尿病が発見されるきっかけは、学校の健診で行われている尿検査です。高血糖が続くと、朝起きてすぐに採取した尿に糖が出るものが多く、これを調べます。子どもや若者世代の治療は、心身の成長を妨げないようにカロリー制限、バランスのよい食事を取り、運動療法も取り入れて体を動かす機会を増やします。

働き盛り世代では、特に四十代の受診率が低く、治療を中断する人が多いことが問題です。健診で血糖値に異常が見つかった段階で治療を受ければ、食事療法と運動療法、少しの薬物療法で血糖コントロールできるようにになります。糖尿病を放置するとやがて、合併症によって生活に支障が起きるおそれがあるため、治療の継続が何より重要です。過去一〜二ヶ月間の血糖値の平均を反映するヘモグロビンA1Cを七%未満に保てば、合併症を抑えることができます。何度も繰り返し返しますが、治療の継続が何よりも大切です。

高齢世代は、患者さんの個人差が大きいのが特徴です。日常生活に必要な動作がどれくらいできるの



か、合併症の有無や種類、認知症はどうかなどを評価しながら、個々の患者さんの状態にそくした治療を行います。ヘモグロビンA1Cを八%未満に目標をおく患者さんもあります。

どの年代においても、食事療法、運動療法、そして、何よりも糖尿病と付き合う気持ちや前向きに持つことが大切だと思います。昔は「無病息災」と言われていましたが、今は「一病息災」と思っています。「自分は病気があるから、これに気をつけよう」とか、「こうしよう」と自分の体をいたわることも心がけましょう。

※お知らせ

医師の不在について

左記の日程、都合により各医師が不在となります。ご迷惑をお掛けしますが、予めご理解お願い致します。

- | | |
|-----------|--------|
| 一月七日(木) | 中村医師不在 |
| 一月二十八日(木) | 大原医師不在 |
| 二月四日(木) | 中村医師不在 |
| 二月二十九日(月) | 大原医師不在 |

感染防止にご協力お願い致します

当院では待合室、診察室などに強力な空気清浄器を設置して院内の空気の浄化に努めております。しかし、それだけでは十分とはいえません。感染症の防止の基本はマスクの励行と手指の洗浄です。御協力をお願い致します。

1. 咳・鼻汁・発熱などの風邪症状のある方は、マスクを着用してご来院いただくようお願い致します。風邪症状のない方も感染予防のために、マスクの着用をお勧めしております。
2. 風邪症状のある方の診察を行う際、医師、看護師はマスクを着用させていただきます。予めご了解お願い致します。
3. 当院入り口に速乾性手指消毒液を置いております。手指を消毒の上、院内にお入り下さい。

